

町の成立と歴史まちづくり

この地区の魅力は、町家が残る街道筋、寺ノ下寺院群の寺筋、舟運時代の御蔵、舟橋跡の川筋と多様な暮しが息づいています。江戸から明治時代にかけて北上川舟運の起点、奥州街道、宮古街道等の城下玄関口として重要な場所でした。川港・新山河岸から川原町には問屋、運輸等に関する店が並び、惣門周辺には、糸糸(移築:国重文)木津屋(県指定)等の大店が並びました。

一方、鉢屋町は街道筋の農村を背景に庶民的な町として発展してきました。また、湧水に恵まれ、青龍水、大慈清水、酒蔵はあさ開、旧岩手川の建造物が残ってきました。

明治23年に、東北線盛岡駅が開業し、鉄道の時代を迎えると徐々に町家は住居化して現在に至ります。近年は、28年に拡幅する都市計画道路が事業決定され、にわかに注目が集まりました。その中、平成15年の暮に住民と専門家が集まり、盛岡まち並み塾が設立され、町家の暮しと町家等の歴史的建造物を保存活用する活動が始まります。

現在は、都市計画道路を廃止して、地区全体の歴史的資源を活用したまちづくりに発展しています。

春夏秋冬の歳時記



- 4月 「盛岡町家旧暦の雛祭り」
「御蔵の雛祭り」
8月 14~16日
「迎え火送り火」
・8月14日
黒川さんさ踊り門付け
・8月16日
舟っこ流し花火大会
9月 「八幡宮例大祭」
10月 「御蔵祭り」
11月 「あさ開 新酒祭り」
1月 「神楽の奉納」
※内容変更の場合あり

盛岡町家とまち並み



盛岡町家は「こみせ」の内土間化した柱持ち下屋を持ち、平入りの町並み。平入りは北東北では旧南部領に分布。町人の職住一体の居住形式で、表から裏に通り土間「ろーじ」が通り、母屋、坪庭、蔵が基本。常居「じよい」の吹抜けが特徴。



明治34年頃建築。平成19年に盛岡まち並み塾により地域の活動拠点として借上げ改修活用した第一号町家。町家の案内所、町家見学、改修相談窓口、喫茶、レンタルスペース等で各種利用可能。営業時間10時~16時/水曜定休。



明治後期の町家。旧毛皮商藤原峯治商店、女優三原葉子生家。庭には宮古市から移築された旧盛岡中図書庫がある。

歴史文化施設



江戸「近籠」~大正「浜藤」酒蔵・旧岩手川工場を活用した町家の見学施設。ホールの利用が可能。営業時間9時~19時/毎月第4火曜定休。

旧備荒蔵。江戸時代からの町家暮らし、新山舟橋、丁印等の資料約3,000点を展示。4月から10月の土日曜日開館。入館無料。

共同井戸



先人の墓所・寺院群



「盛岡市街並み保存活用推進協議会」 岩手県盛岡市内丸12-2 盛岡市交流推進部観光課内 TEL:019-651-4111

問合せ先:「NPO法人盛岡まち並み塾」 岩手県盛岡市鉢屋町3-15「大慈清水御休み処」 営業時間10時~16時(水曜定休) TEL・FAX:019-656-1603 mail:machiya@theia.ocn.ne.jp